

豊の国京築かるた紀行 等覚寺(荻田町)

等覚寺の松会幣切り巖かに

千年の歴史を紡ぐ豊前修験道の祭り「等覚寺の松会」(国指定重要無形民俗文化財)は、荻田町等覚寺地区に伝わる春の祭礼で山の神に秋の爽りを予祝するものです。古文書によれば天曆七年(九五三)に谷之坊(たのぼけ)覚心によって始められたと伝えられています。

祭祀を受け継いだのは、平尾台の東の中腹標高約三百メートルにある、本谷と北谷の里山の人々。祭礼を行う場所、松庭に十三尺(約十メートル)の柱松が立てられ、地元から奉納された籠と伝えられる三本の大綱が掛けられます。「盛一藤」と呼ばれる施主が御幣を背に登り、巖かに祈願文を読み天地四方を祓い清め、全身全霊を込めて幣串を切り落とし、天下泰平、五穀豊穰を祈願します。幣切りが終わると里山に春が訪れます。

松会神事は毎年四月の第三日曜日に行われます。(今年は四月十六日)



[住] 荻田町山口3035
●問い合わせ 荻田町教育委員会
☎093-434-2212
(レポーター/木実原)



応援団ひろば 読者プレゼント

山内公二さん執筆本「新京築風土記」

美夜古郷土史学校の事務局長で、けいちくサルタヒコとしても活動する山内公二さんが「新京築風土記」を出版されました。京築2市5町の300編もの自然・史跡・名所がオールカラーで紹介されています。応募者の中から3名にプレゼントします。ふるってご応募ください。

プレゼントの応募方法 ー(応募締め切り/平成29年4月28日(金)必着) 官製ハガキに郵便番号・住所・氏名・年齢・連絡先(電話番号)をご記入の上、ご応募ください。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。(5月12日までに発送予定)

●応募先/京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局 (福岡県企画地域振興部広域地域振興課内) 「新京築風土記」プレゼント係 〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7

鷗外の心を動かした 若き発明家 矢頭良一



豊前市

日本初の機械式計算機や早繰辞書を発明した矢頭良一は、豊前市黒土村に生まれました。幼少の頃から空飛ぶものに憧れ、21歳の若さで明治の文豪、森鷗外を訪ね、「飛行原理」の必要を説いたことが、「小倉日記」に記されています。若者の才能に心動かされた鷗外は、物心両面を支援します。矢頭は早繰辞書や自動算盤を商品化しながら空中飛船の研究を続けました。1903年ライト兄弟の初飛行から5年後、エンジンの完成目前に、30歳の若さで亡くなります。鷗外は法要の発起人となり「天馬行空」の書をささげました。

中津街道沿いの海辺の集落、松江界隈に若き発明家は眠ります。海風に吹かれながら発明家の短い一生に思いをはせてみませんか? (レポーター/ヒメジヤカ)

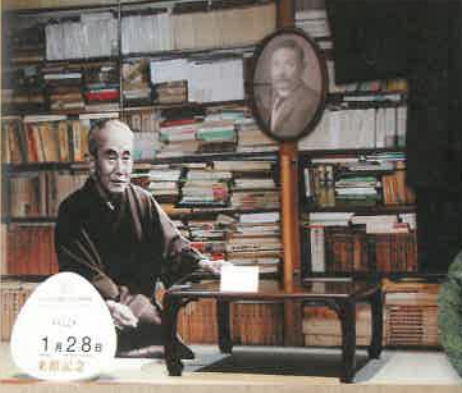
●問い合わせ 豊前市立埋蔵文化財センター ☎0979-82-5287

漱石の「三四郎」のモデル 小宮豊隆のふるさとへ

みやこ町

平成26年10月から朝日新聞に再連載された夏目漱石の小説「三四郎」。田舎の旧制中学を卒業した小川三四郎が東京大学に合格し、上京して都会の新しい空気に触れていくという時代を超えて読み継がれている青春小説です。小説の内容から、三四郎のモデルは夏目漱石の門下生であったドイツ文学者の小宮豊隆といわれています。小宮豊隆はみやこ町犀川久富出身。今でも屋敷跡には泉水や井戸が残り、中学時代までこの地で過ごした当時から偲ばれます。没後、夏目漱石との往復書簡などの交流資料が「みやこ町歴史民俗博物館」に寄贈され常設展示されています。小説にちなみだ駅名がつけられた平成筑豊鉄道「東犀川三四郎駅」で下車すればふるさとに降り立つ三四郎気分です。

(レポーター/ヒサノスケ)



●問い合わせ みやこ町歴史民俗博物館 ☎0930-33-4666

天馬行空

浜高遺書



歌手森山良子の曾祖父 狭間畏三が愛した高城山

荻田町



ルーツをたずねるTV番組で歌手の森山良子さんの曾祖父が荻田町出身の国学者狭間畏三であると紹介されました。思わぬ縁! ちなみに森山家は小倉で初めての写真館を営んでいます。森鷗外と親交を持ち、作品にも再三登場する畏三は「天孫降臨の地は豊前の国京都郡の高城山だ」とその著書「神代帝都考」で説き、山頂にある二つの巨岩を「天の逆鉾」と呼びました。しめ縄が張られたその岩は神々しい靈気に満ちたパワースポットです。作家松本清張も畏三に興味を示し、小説「鷗外の婢」に「神代帝都考」の名を記しています。多くの登山者が訪れる高城山でエネルギーを取り込みフレッシュしてみませんか? 高城山登山南原ルートは桜の名所千本桜を経由して行程約40分です。

(レポーター/木実原)

●問い合わせ 荻田町観光協会 ☎093-434-5560



京築に赤穂義士 歴史を語る礒貝十郎左衛門の遺品

上毛町



昨年秋から放映されたTVドラマ「忠臣蔵の恋」。主人公きよが慕った礒貝十郎左衛門正久の9代目にあたる礒貝良洋さんが上毛町にお住まいです。美青年で利発、文武に秀でていた十郎左衛門は14歳のとき藩主浅野内匠頭の小姓に。討ち入り後25歳で切腹。遺品の中に琴の爪が一つあったという逸話を持つ芸事に優れていた義士でした。礒貝家は十郎左衛門の兄の末裔、中津藩家臣の門六正次によって再興しました。毎年12月に「義士祭」を開催し、吉良を見つけた時の合図に吹いた笛や刀、大石内蔵助から拝受した盃など、江戸にいてはきっと残せなかった貴重な遺品を公開し、その歴史を語り継いでいます。

(レポーター/カジカガエル)



●問い合わせ 上毛町役場企画情報課 ☎0979-72-3111

水都行橋を守る 愛すべきカッパはどこに?

今川、長峽川、祓川、音無川、二級以上の河川が4本もある行橋市は、その水運を活かして商業が発達し、川沿いには豪商の名残があり、駅前商店街には水路が入り組む、まさに京築の水の都です。伝説上の水の妖怪「カッパ」が市内にも言い伝えられており、駅名にもなっています。水の豊かなこの土地を水難から守るべく根付いているのなら、子どもたちに大人気のアニメ『妖怪ウォッチ』の「ジバニャン」のごとく、行橋を守る愛すべきカッパ「ジガッパ」なのかもしれません。平成筑豊鉄道、今川河童駅前にたたずむカッパ像を横目に、季節と歴史と妖怪を訪ねて、親子で春の河川敷散歩を楽しんでみませんか。

(レポーター/若草物語)

●問い合わせ 行橋市総合政策課 ☎0930-25-1111



宇都宮鎮房本拠地 伝法寺を訪ねて

築上町



大河ドラマ「軍師官兵衛」で無敵の黒田勢に唯一勝利した武将といえば築上町城井谷を治めた宇都宮(城井)鎮房。官兵衛に惚れられた鎮房は中津城で悲壮な最期を遂げ一族も滅びます。ドラマでの村田雄浩さんの熱演が記憶されますが、築上町では宇都宮氏を偲ぶ「城井谷の落日」シリーズ町民劇が何度も上演され、四百年を経てなお、宇都宮(城井)一族への思いが熱く受け継がれています。この3月、伝法寺集落に宇都宮氏家臣の末裔の住宅を改修した古民家食庵「伝法寺庄」がオープン。季節の郷土料理が味わえます。

(レポーター/mulberry)

●問い合わせ 古民家食庵「伝法寺庄」 ☎080-1760-3633[要予約] ☎[営]金・土・日 11.00~15.00